

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(11月24日～11月30日)

2020年12月3日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 北マケドニア、モンテネグロ、アルバニア、アイスランド、リヒテンシュタイン及びノルウェーが、EUによる対ベラルーシ第二次制裁に合流(11/24)
- ラブロフ露外務大臣と会談(11/26)
- 2020年11月ベラルーシ対外債務額、年始対比29.3%増加の181億ドル(11/30)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

- イスラエルや中国、その他4か国(カンボジア、バングラデシュ、パキスタン、ナミビア)及びマルタ騎士団の大使から信任状を受領
(11/24 大統領公式ホームページ)

- イェルマルコヴァ・ベルガスプロム銀行臨時管理長と会談(11/24 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・困難な時期にベルガスプロム銀行の状況を安定化させてくれたことに謝意を表明する。この事実は歴史となるであろう。
- ・我々は、同銀行を清算することも、破滅させることもないと強調する。逆に、我々は同銀行が機能し、国家に利益をもたらすよう全てを行う。
- ・同銀行は計画以上の利益を計上している。ビジネスは完全に復活しているわけではないが、良い兆候である。さらにこのビジネスの問題は、我々ではなく、我々のパートナーによる政策に起因している。
- ・12月中旬に臨時管理機関の権限の期限を迎えるが、その時までには同銀行の経営陣を形成する必要がある。
- ・国家統制委員会による同銀行活動調査の情報を入手した。同情報は、現臨時管理機関の指導層にも届くであろう。12月中旬には、全てのプロセスを終える。

- トウルメル・ハンガリー労働者党議長と会談(11/26 大統領公式ホームページ)

- ラブロフ露外務大臣と会談(11/26 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・我々の会談は、常に生産的である。我々はその機会を活用する。あなた方は、我々以上に、国際舞台において、この荒れ狂う世界で忙しくしており、あなた方の姿勢や視点は、我々にとって非常に重要であり、啓発的なものである。
- ・ベラルーシ・ロシア関係については、何らかの再起動ではなく、関係の強化、集約化について話す必要がある。我々は、ロシアとは単なる善隣関係ではなく、近い兄弟関係を持ちたいと考えている。時は、我々が親密かつ友好的関係から逃れられないことを示した。ロシアの首脳もその関係を求め、選択することを期待している。
- ・コーカサスで発生したことをお祝いしたい。ロシアのおかげで戦闘が停止したこと、人々が死んでいないこと、コーカサスにおける関係正常化が始まったことは、非常に肯定的かつ良い兆候である。私は、当初からコーカサス地方の問題に精通しており、ロシア、アルメニア、アゼルバイジャンの首脳達と議論してきた。私は、このような形で、以前議論した通りに危機が解決し満足しており、心からお祝いしたい。
- ・しかし、たくさんの困難がある。我々は、新型コロナウイルスの流行に始まって、何よりも世界唯一の覇権国であろうとするアメリカによる様々な要求に至るまでの諸問題を克服しつつ、ロシアが望むならばであるが、口

シアと共に自身の道を進んでいく用意があることを理解してほしい。

ラブロフ露外務大臣の発言要旨

- ・第一に、プーチン露大統領から貴大統領へ挨拶を預かっている。プーチン露大統領は、ソチを始め、過去、貴大統領と合意したこと全てについて確認した。二国間関係強化における我々の利益は完全に一致している。我々には、両国民、両国、連合国家の利益のため前進するという同様の目的がある。
- ・プーチン大統領が幾度となく強調したように、我々は、貴方のイニシアチブが実現することに関心を持っている。その支援のためできることがあれば、我々は常にオープンである。

●ミンスク市立第六病院を視察(11/27 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

1 医療について

- ・新型コロナウイルスの高い疾患率は、ベラルーシが第一波において既に知見を有するといえど、深刻な問題である。重要なことは、パニックを起こさせないことである。
- ・新型コロナウイルスは、単なる医学的問題ではなく、政治経済的な病気である。どこかの国を阻害したい場合、新型コロナウイルスを盾に国境を閉鎖する。誰かが誰かに圧力を掛けたい場合も、新型コロナウイルスを利用している。
- ・医療従事者界限やテレグラム・チャンネルにおいて、国内の死亡者統計に疑義が生じているというが、心配する必要はない。誰も騙そうとしていない。騙す必要がないからである。死因を喘息や肺炎とすることもあろうが、国内死者総数は隠れることない。今年が終われば、統計が明らかになる。医療従事者は、死亡率について正確に知ることになろう。
- ・ベラルーシ国内検査対象者における陽性患者の半分がミンスクにおいて見つかった。特に毎週日曜日、ソーシャル・ディスタンスを遵守しながら、市街で走り回っているから、そのはずであろう。(当館注:抗議運

動に対する皮肉。)

- ・ミンスク市立第六病院訪問は、国内各州の病院訪問のスタートである。次に訪問する可能性のある州は、モギリョフ、グロドノ、ミンスク州である。
- ・世界経済は停滞している。我々は石油やガスを持っているわけではない。我々にとって、この時期に多くのお金を使うことは簡単ではない。しかし、この一年で人々の治療のために国家予算の8億ドルを使用している。我々の医療は無料と言われるが、教育と同様に国家予算を費やしており、無料ではない。しかし、大統領令で定めた医療従事者への追加支払いが中断されることはない。同追加支払いのおかげで、保健分野で従事している者の給与は、他の公務員を大きく上回っている。
- ・ピネヴィチ保健省次官、保健大臣代理を、保健大臣に任命する。

2 憲法改正

- ・私は、新たな憲法の支持者である。それは、何らかの民主主義が必要であるからではない。民主主義の問題ではない。見知らぬ大統領に新たな憲法を与えてはならない。悲惨なことになる。我々の憲法は、非常に厳格である。カザフスタン、ロシア、そしてベラルーシは、全ての決定が大統領に依るという厳格な憲法を有する三大国家である。この観点において、新たな大統領が着任し、戦争を勃発させることがないようにしなくては行けない。新たな憲法は必要であるが、将来、国が崩壊しないよう、我が国にとって利益のある憲法にする必要がある。
 - ・調整評議会幹部会メンバー・ラトウシュコ氏は「(同氏とチェコ外相との会談において)民主的野党勢力に、今以上にベラルーシの独裁政権を覆す機会は無かった。調整評議会は、ルカシェンコにより提案された憲法改革プロセスを遮断することが重要な目的であると考えている」と述べた。つまり、民主的野党勢力にとって、憲法も、憲法の改正も一切必要とされていない。仮に新憲法を採択すれば、権力の分散が生じる。彼らが必要なのは、現在の権力を有する大統領である。
- ##### 3 退任の示唆
- ・議会選挙における比例代表制の導入については、

社会の分断、多様な利益を有するグループが発生する恐れがあると確信している。他国における比例代表制等を見れば、それは良いものであろう。もしあなた方がそれを求め、国民が賛成するのであれば、導入されるであろう。私は、私のための憲法を作ることはない。

・新たな憲法の下、私が大統領として働くことはないであろう。それゆえ、落ち着いてそれに耐えて欲しい。新憲法を採択し誰かがそれを偽ったり、あるいは、新憲法を捏造することを私は許容しない。仮に、憲法が私が望むようなものにならないと知ったとしてもである。なぜならば、ベラルーシ国民は、乗り越えなくてはならないことを乗り越えるべきであるからである。

●ミヤスニコヴィチ・ユーラシア経済委員会委員長と会談(11/30 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・12月11日に最高ユーラシア経済評議会の会合が予定されている。そろそろ、各首脳と直接会うべきであろう。軍事から経済に至るまで多くの問題がある。

・今年、世界経済は暴落した。その危機は、ユーラシア経済同盟域内にも関係している。この状況から脱出するのは非常に難しい。外交的な戦争に移行するマスメディアを舞台とする、あからさまな経済戦争が行われている。我々の周囲は非常に深刻な事態となっており、各首脳と直接議論すべきであろう。

・議題は28件あるが、うち4件は、限定メンバーで議論される。我々は、遅滞や官僚主義なく、全ての問題を計画通りに解決するよう主張している。プーチン露大統領は「一緒に行く必要がある。一緒に行えば、全ての困難を克服しやすくなる。」と常に強調している。

・最も重要な議題の一つは、2025年までのユーラシア経済同盟の統合戦略である。天然ガスを始めとする統一市場の問題を解決すると合意していた。唯一の問題は、ガス輸送の公平な価格である。

●集団安全保障条約ベラルーシ全権代表にレメンチク駐露参事官を任命。(11/30 大統領公式ホームページ)

【外交】

●北マケドニア、モンテネグロ、アルバニア、アイスランド、リヒテンシュタイン及びノルウェーが、EUによる対ベラルーシ第二次制裁に合流。なお、11月20日に上記6カ国及びウクライナがEUによる対ベラルーシ第一次制裁に合流していた。

(11/24 ベラパン通信)

●英国外務省、ベラルーシで拘束されている記者の即時解放を要請。

(11/24 ベラパン通信)

●アレイニク外務次官、イヨジチェム駐ベラルーシ・ローマ教皇庁大使と会談し、ベラルーシとバチカン市国の協力の活性化について協議。

(11/24 ベラパン通信)

●ベラルーシ外務省、駐ベラルーシ・ウクライナ大使に、在ウクライナ・ベラルーシ大使館に対する間断のない反ベラルーシ行動に関する抗議の口上書を手交。

(11/26 ベラパン通信)

●在ベラルーシ・米国大使館、ベラルーシ政権による記者に対する圧力への批判を表明。

(11/26 ベラパン通信)

●欧州議会、EUに対し、ベラルーシ政権によるベラルーシ国民に対する国際犯罪の調査を要請。

(11/26 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ミンスク訪問中のラブロフ露外務大臣と会談。露ベラルーシ外務省参与会合同年次会合を実施。

(11/25,26 ベラパン通信)

●ナザロフ副首相、ノヴァク露副首相と石油・ガス問題に関する協議継続で一致。

(11/27 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、ミシュスチン露首相と電話会談。両国の貿易経済協力発展における優先分野に関し協議。

(11/30 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、上海協力機構加盟国首相ビデオ会議に出席。

(11/30 ベラパン通信)

【経済】

●2020年10月、ベラルーシ国内平均給与、前月対比1.6%上昇の1,285ベラルーシルーブル。

(11/24 国家統計局)

●2020年10月、ミンスク市内平均給与、前月対比、1.4%上昇の1,806ベラルーシルーブル。

●欧州復興開発銀行(EBRD)、ベラルーシ国民銀行へ零細・中小企業向け再融資のため7百万ユーロの融資供与。

(11/24 ベラパン通信)

●2020年1月～9月、ベラルーシの石油、石油製品輸出量、昨年同期対比34.3%減少。

(11/24 ベラパン通信)

●オストロヴェツ原発技師長、「今後予定されている動的試運転において発電システムが一時停止する可能性がある」と発言。

(11/24 ベラパン通信)

●2020年1月～9月、産業分野における赤字企業数が昨年同期対比49社増加、同企業の累積純損失額は5倍増加。

(11/25 ベラパン通信)

●2020年1月～9月、ベラルーシ・EU間貿易高、昨年同期対比15%減少。

(11/25 ベラパン通信)

●2020年1月～9月サービスの輸出額及び輸入額、昨年同期対比それぞれ、9.6%、18.6%減少。

(11/26 ベラパン通信)

●2020年10月公務員給与、前月対比3.1%増加の1,016ルーブル。

(11/26 ベラパン通信)

●2020年、ベラルーシ国内個人事業主数、昨年末対比、4.9%増加。

(11/27 ベラパン通信)

●2020年11月ベラルーシ対外債務額、年始対比29.3%増加の181億ドル。

(11/30 ベラパン通信)

●2020年10月、本年度予算の政府財政赤字額が18億ルーブルから6億ルーブルへと66%減少。

(11/30 ベラパン通信)

●2020年1月～10月、ベラルーシ貿易高、昨年同期対比17%減少。

(11/30 ベラパン通信)

【内政】

●国家保安委員会、ババリコ氏含めベルガスプロム銀行経営陣の刑事事件の公判前取り調べを完了。

(11/24 ベラパン通信)

●クブラコフ内務大臣、ヴィテプスク州内務省地域局の新施設の建設完工式に出席。

(11/24 ベラパン通信)

●内務省、ミンスク市内でクルク調整評議会メンバーを拘束。

(11/29 ベラパン通信)

●内務省、11月29日の抗議運動に際して313名を拘束したと発表。

(11/30 ベラパン通信)

●内務省、テレグラム・チャンネル「白い服」の管理人を拘束。

(11/19 ベラパン通信)

●内務省、22日の大規模集会にて345名を拘束したと発表。

(11/23 ベラパン通信)

●ピニエヴィチ保健省次官、マスク着用義務は、新型コロナウイルス感染数の低下、あるいは、同ウイルスによる疫病の終結まで継続される、と発表。

(11/23 ベラパン通信)

【抗議勢力側の動き】

●ラトウシュコ氏(調整評議会幹部会メンバー、)、露テレビ番組「ドーシチ」に出演し、ラブロフ露外務大臣のミンスク訪問について言及。(11/26 ベラパン通信)

ラトウシュコ氏の発言要旨は以下の通り。

・我々は、名字を呼ぶことは出来ないが、(ロシア政府関係者との)ハイレベルの対話をしているが、公式な接触はない。

・ロシア政府は、ルカシェンコ支援の姿勢を継続している。その姿勢については、本日、明日、ラブロフ露外務大臣の口から発されるであろう。現時点で同外務大臣は、公にその姿勢を変えるための白紙委任状(カルト・ブランシュ)を受け取っていない。

・しかし、社会との対話に関する条件をルカシェンコが履行していないことに関する具体的な交渉が行われるかもしれない。ルカシェンコは、ロシアとの全ての約束及び合意を撤回したのである。

・ロシア政府には、ベラルーシの政治危機に対し中立的な姿勢を取ることを要請する。ロシア政府によるベラルーシ現政権の支援が続けば、ロシアとの相互に利益のある協力を望むベラルーシ国民の地政学的な視点の転換が起こりうる。

●チハノフスカヤ元候補、ラブロフ露外務大臣のミン

スク訪問に関し、「ルカシェンコとロシア政府の取引及び合意は、新政府によって全て見直され、破棄される。」と発表。(11/26 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、テレビ局ベルサトのインタビューにおいて「我々には、ジョー・バイデン次期米国大統領との会談への招待がある」と公表。(11/27 ベラパン通信)(11/27 ベラパン通信)

●調整評議会、ベラルーシ政府に対し、弁護士活動の安全保障を要請。

(11/28 ベラパン通信)

●29日、ミンスク市始め国内各都市で抗議運動「勇敢な人々の行進」が実施。

(11/29 ベラパン通信)

(了)